

[年度] 平成25年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] カキ「太天」の樹上脱渋処理技術

[要約] カキ「太天」は、9月中旬から10月上旬に48時間の樹上脱渋処理を行い、11月下旬～12月上旬に収穫することで、食味良好な果実が収穫可能になる。

[キーワード] 太天、樹上脱渋、収穫時期、褐斑程度、果実品質

[担当機関名] 果樹試験場かき・もも研究所 [連絡先] 0736-73-2274

[専門分野] 果樹

[分類] 研究

[背景・ねらい]

カキ「太天」は、大果で食味が優れ、日持ち性が高く、栽培も容易である。しかし、不完全渋柿であるため脱渋が必要で、様々な脱渋法の中でも樹上脱渋処理果実の食味が優れることが明らかとなっている。そこで、樹上脱渋処理時期および収穫時期を検討し、高品質果実生産のための樹上脱渋技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 「太天」は、樹上脱渋処理（固形アルコール（シブトール）1個、へた出し法）を、8月下旬から10月上旬に行うことで脱渋可能であり、処理時期の違いによる果実重、果皮色、糖度、果肉硬度への影響はほとんどみられない（表1）。
2. 果肉の褐斑程度は、処理時期が早いほど強くなる傾向があり、9月中旬から10月上旬に樹上脱渋処理を行うことで褐斑が弱程度となり、食味良好な果実になる。ただし、気温の低下により渋残りする可能性があるため、処理時間は48時間が適当であると考えられる（表2）。
3. 果実重は収穫時期が遅いほど増加する傾向があるが、果肉硬度と糖度は収穫時期による差が少ない。また、収穫日が遅いほど着色が進む（表3）。

[成果の活用面・留意点]

特になし

[具体的データ]

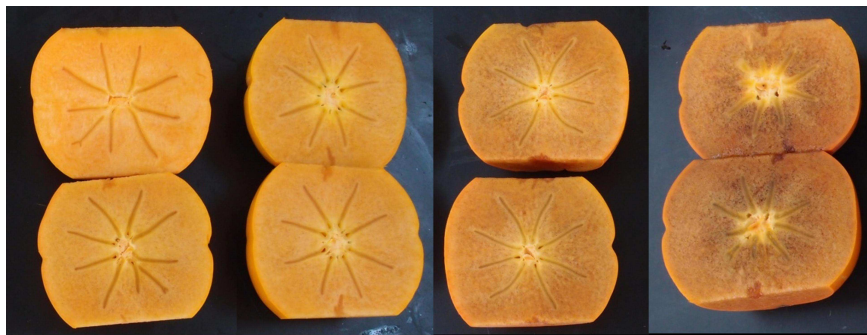
表1. 処理日別の果実品質(2013)

樹上脱渋 処理日	平均気温 (°C)	収穫日	果実品質			
			果実重 (g)	果皮色 (カラーチャート値)	糖度 (%)	硬度 ^Y (kg)
8月27日(24時間)	24.9	11月22日	507a ^Z	6.6a	17.9a	1.4b
9月17日(24時間)	21.3		436a	6.4a	18.0a	1.7a
10月3日(24時間)	22.3		502a	6.6a	18.1a	1.5b
10月3日(48時間)			475a	6.1a	17.5a	1.5b

Z:異符号間にはTukey-kramerの多重比較検定により5%水準で有意差あり
Y:硬度(ユニバーサル硬度計:円筒型プランジャー)

表2. 処理日別の褐斑程度(2013)

樹上脱渋 処理日	収穫日	褐斑程度 ^Z (%)			
		無	弱	中	強
8月27日(24時間)	11月22日	0	0	60	40
9月17日(24時間)		0	100	0	0
10月3日(24時間)		11	89	0	0
10月3日(48時間)		0	100	0	0



無 弱 中 強

(z:褐斑程度は育成系統適応性試験・特性検定試験に基づく)

表3. 収穫日別の果実品質(2012)

樹上脱渋 処理日	収穫日	果実品質			
		果実重 (g)	果皮色 (カラーチャート値)	糖度 (%)	硬度 ^Y (kg/cm ²)
9月13日	11月5日	390a ^Z	5.2a	15.7a	5.7a
	11月15日	431ab	4.7a	15.8a	4.4b
	11月26日	471b	5.6b	15.2a	5.2ab
	12月4日	468b	6.2c	15.4a	5.2ab

Z:異符号間にはTukey-kramerの多重比較検定により5%水準で有意差あり
Y:硬度(レオメータ(レオテック製NRM-1010A:φ5mm円形プランジャー、貫入速度2cm/min)示度)

[その他]

研究課題名：カキの高品質生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成24～25年

研究担当者：弘岡拓人、熊本昌平

発表論文等：なし